様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３２８０９
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ１９１４９

研究課題名（和文）慢性疾患患児の父親の経験および心理的特性に基づいた支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of the support program for fathers of children with chronic illness based on father's experience and psychological characteristic

研究代表者
原口　昌宏（HARAGUCHI, MASAHIRO）

東京医療保健大学・看護学部・講師

研究者番号：２０７５３０１５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：第1段階で、インタビュー調査を行い、父親は、家庭や社会の中でストレスを経験し、否定的及び肯定的な認知を抱いていた。第2段階で、健常児の父親と比較し、質問紙調査を行った。結果、高ストレッサー下ではSOCの高低により父親の精神健康の悪さと有意な差を認め、さらに父親のSOCは、ソーシャルサポートと有意な正の関連性があった。第3段階で、支援プログラムの開発のため、ストレス経験に対する父親の認知構造を明らかにすることとし、3因子を抽出した。今後父親のストレス経験を肯定的に捉える認知特性に着目し、Positive Psychology Approachに基づく支援の方策が有用である可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
慢性疾患患児の父親の心理的特性を踏まえた支援プログラムが開発されることで、臨床現場だけではなく、在宅の場で療養にあたる父親への具体的な支援を検討し、父親を支援の輪に組み込んでいくような積極的な働きかけをすることができる点から社会的意義は高い。また医療者はこれまで父親への支援の必要性を感じながらも、不明瞭であった。父親の経験を明らかにしたことで、医療者に対して、父親が看護援助の必要な対象であることを再認識する機会になる。また父親を対象とした支援プログラムは未開発であり、研究も見当たらない。本研究で得られた慢性疾患患児の父親に関するデータは国内外において非常に貴重なデータであり学術的意義が高い。

研究成果の概要（英文）：In the first stage, through an interview survey, it was revealed that fathers experience various stresses within their families and society, and they possess not only negative but also positive cognitive perceptions. In the second stage, a questionnaire survey was conducted, comparing fathers of typically developing children. The results indicated under high-stress conditions, there was a noticeable difference in fathers' mental health based on the level of Sense of Coherence (SOC). Additionally, fathers' SOC showed a significant positive correlation with social support. In the third stage, the focus was on elucidating fathers' cognitive structures regarding their experiences of stress to develop a support program. Three factors were extracted. These findings suggest the potential utility of emphasizing cognitive characteristics that positively perceive fathers' stress experiences and implementing support strategies based on the Positive Psychology Approach.

研究分野：生涯発達看護学関連

キーワード：慢性疾患患児　ストレス経験　ストレス認知　父親　心理的特性　健常児　支援プログラム　Positive Psychology

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年の周産期および小児医療の発展のもと、慢性疾患の長期治療を必要とする子どもの多くは長期生存が可能になった。そして医療制度改革により、子どもの入院期間は短縮化され、継続的な管理が必要な慢性疾患や医療依存度の高い疾患をもつ子どもであっても、自宅療養するようになってきた。

このような医療や社会的背景の変化の中で、慢性疾患患児の親は、医療だけではなく、教育や日常生活の様々な場面での支援を望んでいるが、十分な対応がなされていない現状があり、ストレスを多く抱え、心理的障害を引き起こすことが報告されている。特に母親の心理的特性に関する研究は多く、育児に関して、健常児の母親より困難を感じやすい状況にあること、母親の QOL にストレスやコーピングなどが関連していることが報告されている。さらに子どもの病気を肯定的に受け止め、前向きに生きようとしていること等、慢性疾患患児の母親の心理的特性は詳細に研究され、具体的な支援策が示唆されている。

一方で、慢性疾患患児の父親に関する研究は少なく、父親への支援を検討する上で実情が不明瞭である。国外研究では、父親が子どもの病気に対して様々な思いを抱いていること、父親がストレスに対して自己完結型の問題対処方略を取り、心情を吐露して他者にサポートを求めることが苦手であることが明らかになっており、一部の否定的な心理特性の抽出に留まっている。さらに国内外を通して、慢性疾患患児の父親に焦点をあてた支援プログラムは、ほぼ実施されておらず、その支援プログラムの有用性についても明らかにされていない。また近年厚生労働省による男性の育児が啓発活動による家族を取り巻く社会の変化に伴い、父親の役割も多様化している。このような現状を踏まえ、慢性疾患患児の家族である父親も看護の対象と捉え、適切なケアを提供するために、慢性疾患患児の父親について多角的に理解する必要がある。

２．研究の目的

本研究の核心的「問い」は次の 3 点とした。

1. 慢性疾患患児の父親は、経験はどのようなものか。経験をどのように捉えているのか。
2. 慢性疾患患児の父親は、健常児の父親との比較を通して、どのような心理的特性があるのか。
3. 慢性疾患患児の父親の心理的特性に基づく有用な支援プログラムはどのようなものか。

そこで、本研究の目的は、慢性疾患患児の父親自身の経験や健常児の父親との比較を通して、父親の心理的特性を明らかにし、その特性に基づいた支援プログラムを開発することとした。研究は 3 段階構成とし、第 1 段階では、慢性疾患患児の父親がどのような経験をし、その経験をどのように捉えているかを明らかにした。第 2 段階では、健常児の父親との比較を通して、父親が困難を乗り越える力、立ち直る力、ストレスに対処する力など、父親自身がもつ心理的特性について明らかにした。そして第 3 段階で、支援プログラムの開発に着手することとした。

３．研究の方法

本研究では、第 1 段階では、慢性疾患患児の父親がどのような経験をし、その経験をどのように捉えているかを明らかにし、第 2 段階では、健常児の父親との比較を通して、父親が困難を乗り越える力、立ち直る力、ストレスに対処する力、父親自身がもつ心理的特性について明らかにする。そして、第 1、2 段階の研究を通して、第 3 段階では得た知見に基づき、慢性疾患患児の父親を支援するためのプログラムの開発に着手する。

【第 1 段階】研究デザイン：質的記述的研究デザイン、研究参加者：慢性疾患患児の親で結成されたセルフヘルプグループを通じて、研究参加の同意が得られ、小児慢性特定疾患治療において、対象疾患となっている 16 疾患群に該当し、現在在宅療養生活を送っている児の父親 10 名程度。なお、調査依頼時に、患児が入院中である場合は、対象から除外とする。データ収集方法：インタビューガイドを用いた半構造化面接法、主なインタビューガイド：年齢・家族構成・職業、現在までの子どもの経過、父親としての出来事で印象に残っていることはどんなことか、その出来事はどんな経験であったか、慢性疾患患児の父親として、今までの経験をどのように認識しているか等、分析方法：質的記述的研究法

【第 2 段階】研究デザイン：横断的仮説検証型研究デザイン、研究対象者：慢性疾患患児の父親及び健常児の父親各 100 名程度、データ収集方法：自記式質問紙調査、主な調査項目：父親の基本属性、子どもの基本属性（共通）、子どもの病気に関する属性、父親のストレス反応に関する指標(抑うつ度)、父親の QOL に関する指標(人生満足度)、父親のソーシャルサポート、父親のストレス認知に関する指標(Sense of Coherenc)、分析方法：記述統計、単変量解析、多変量解析

【第 3 段階】【第 1 段階】および【第 2 段階】の調査結果に基づき、調査の参加者と研究者で会議を開催し、会議内での意見を得て、支援プログラムを作成する。

４．研究成果

第 1 段階では、慢性疾患患児の父親が、どのようなストレスを経験しているのかを明らかにするため、父親 7 名を対象とし、インタビュー ガイドを用いた半構造化面接法にて調査を行った。結果、慢性疾患患児の父親のストレス経験として 4 カテゴリーが抽出され、父親は、子ども病気そのものだけでなく、家庭や社会の中で様々なストレスを経験し、否定的な認知だけでなく、肯定的な認知も併せ持っていることが明らかになった。

第 2 段階では、健常児の父親との比較を通して、慢性疾患患児の父親の精神健康にストレッサーがどのように関連するか、どのような心理的特性があるのか等を 明らかにするため、横断研究デザインに基づき、無記名自記式質問紙調査を行い、慢性疾患患児の父親 51 名、健常児の父親 86 名を対象とした。結果、慢性疾患児がいること、子どもの医療処置が多いことは、父親の精神健康の悪さと有意に関連していた($p<.01$)。また、高ストレッサー下では Positive Psychology の一つである Sense of Coherence (SOC) の高低により父親の精神健康の悪さと有意な差を認めた($p<.01$)。さらに、父親の SOC は、ソーシャルサポート全体、下位因子の道具的及び情緒的サポートと有意な正の関連性があることが明らかになった。

第 3 段階では、支援プログラムの開発に着手するため、ストレス経験に対する慢性疾患患児の父親の認知構造を明らかにすることとした。探索的因子分析の結果(全体の $\alpha=.846$)、「慢性疾患患児の父親としての自己不全感≫3 項目、≪社会からの孤立感と見通せない未来への把握不能感≫5 項目、≪慢性疾患患児の父親・夫としての幸福感と使命感≫11 項目の 3 因子が抽出された。これらの成果から、父親のストレス経験を肯定的に捉える認知特性に着目し、Positive Psychology Approach に基づく支援の方策が有用である可能性が示唆された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Masahiro HARAGUCHI, Tomoko TAKEUCHI	４．巻 48(5)
２．論文標題 The Stress Experience of Fathers of Children with Chronic Illnesses: Qualitative descriptive research	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Pediatric Nursing Journal	６．最初と最後の頁 242-247
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Masahiro HARAGUCHI	４．巻 48(4)
２．論文標題 Perceptions of fathers who have a child with congenital heart disease from birth through infancy	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Pediatric Nursing Journal	６．最初と最後の頁 179－183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Masahiro HARAGUCHI	４．巻 1
２．論文標題 Relationship between mental health and stressors among fathers of children with chronic illness	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Scientific Reports	６．最初と最後の頁 1－13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21203/rs.3.rs-2525732/v1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 Masahiro HARAGUCHI, Tomoko TAKEUCHI
２．発表標題 Sense of coherence among Japanese fathers of children with chronic illnesses
３．学会等名 The 7th Asia Pacific Congress of Pediatric Nursing（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 原口昌宏，竹内朋子
２．発表標題 慢性疾患患児の父親のストレス経験に対する認知
３．学会等名 第41回　日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Masahiro HARAGUCHI, Tomoko TAKEUCHI
２．発表標題 Literature Review of the Father's Psychological Characteristics and Coping Behaviors in the Case of Children with Chronic Illnesses
３．学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 原口昌宏，竹内朋子
２．発表標題 慢性疾患患児の父親のストレス経験
３．学会等名 第30回日本小児看護学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Masahiro HARAGUCHI, Tomoko TAKEUCHI
２．発表標題 Relationship between mental health and stressors among fathers of children with chronic illness
３．学会等名 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS2023)（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 原口昌宏，竹内朋子
２．発表標題 慢性疾患患児の父親のストレス経験に対する認知の構造
３．学会等名 第32回日本小児看護学会学術集会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関